

平成29年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

平成30年3月31日現在

取り組み内容	事務局等 担当者	平成28年度事業成果と今後の課題	平成29年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	平成29年度中の進捗状況①	平成29年度の取組み結果
<b>1.ふくしを支える人づくり (1)「ふくしの風土づくり」の基盤をつくる</b>					
子どもから高齢者まで幅広くあいさつ・声かけ運動の促進に努め、ふくしの心を育みます。	本田	「あいさつ」は人の心をノックする大切な言葉の交し合いです。子どもだけでなく、すべての人(家族・職場・地域内等でも)に大切さを再確認してもらうことが全体の課題です。	「まずは私たちから」実施します。私たち(社協職員)があいさつの大切さを体感し、一人一人の姿勢で伝えていく取り組みをしたいと思います。	言葉の交し合いがあいさつではなく、相手があいさつで気持ち良く一歩を踏み出せるような姿勢も含めてのあいさつ。まだまだ心したいと思います。	これでいいということではなく、常に心し、すべての方に自ら行動できる！継続課題としたいです。
●小学校・中学校と協力して「あいさつ月間」を設けるなどのキャンペーンを展開し、民生委員・児童委員や集落の区長などと連携して人から人へのあいさつ運動の広がりを促します。	本田 吉田	福祉教育の時間に「あいさつ」はどうして大切なのかを子どもたちと考える時間をもらい今年度も実施しました。	今年度も引き続き、子どもたちと「あいさつ」の大切さを一緒に考えていきたいと思っています。また、学校や地域ともタイアップし、自然に言葉を交わし合えた時に、近くにいる人から称賛した気持ちを表現し合える働きかけをしていきたいです。	今年度も引き続き、ボランティアスピリッツ「ぼく・わたし・あなたを知る！」の中で、あいさつの大切さを一緒に考える時間を設けました。子どもたちから「魔法の言葉」と表現されたのが印象的。	平成29年度も子どもたちの感性の豊かさに感動しました。いろいろな人との関わりの中から自分のいいところを見つけたり、知ったりする自分理解、広く人間を理解する(したいと思う)きっかけづくりになったように思います。(聖籠中1年生対象年17回実施)
地域における人と人のつながりを生みだすため、地域内の清掃活動へ協力します。	本田	毎年恒例になり、公共機関にチラシを置かせてもらったり、ポスターを貼ったり、多くは口伝えでの実施PRになってきていますので、PR方法を再度検討したいと思います。	海岸清掃は引き続き取り組んでいきたいと思っています。また、各地域でもクリーン作戦等個々実施していますが、転入者の多い聖籠町ですので、参加しやすくするための工夫を実施している区長さんと考えることも検討します。	今年も8月5日に実施しました。町内外からたくさんの方が参加してくださいました。海のにぎわい館・サーフショップのご協力、全世帯には配布しませんでした。公共機関等にチラシを置かせて頂いたこともあり、年齢層もハンディがありなしに関わらずともたくさんの人と活動することができました。	今年も8月5日に実施しました。町内外からたくさんの方が参加してくださいました。海のにぎわい館・サーフショップのご協力、全世帯には配布しませんでした。公共機関等にチラシを置かせて頂いたこともあり、年齢層もハンディがありなしに関わらずともたくさんの人と活動することができました。
●さわやかクリーンサポートの登録団体等と連携し、地域住民と一緒に活動できるイベント等の企画を検討します。	本田 吉田	毎年、聖籠夏まつり花火大会の前日の朝、海岸清掃を実施しています。今年度も実施しました。(ボランティアグループやサーファグループ、杉の子の家、中学生、地域の方々等さまざまなメンバーでの実施)	夏の暑い時期のため、朝6時からの開催が恒例になっていますが、以前とは違い安全面重視の保護者が多く、中学生が参加しづらくなってきています。そのため、子どもだけの発想から保護者も一緒にの呼び掛けに今年度はプラスし取り組んでいきたいです。	〃	〃

平成29年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

平成30年3月31日現在

取り組み内容	事務局等 担当者	平成28年度事業成果と今後の課題	平成29年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	平成29年度中の進捗状況①	平成29年度の取組み結果
<b>(2)「ふくしの風土づくり」の担い手を育む</b>					
地域や学校におけるボランティアなどの体験学習、福祉教育を行います。	本田	園や学校、施設等それぞれの時間帯や予定で動いているため、早めの日程(時間)調整が必要です。また、安全面がかなり厳しくなり、徒歩や自転車移動ではなく、バス送迎等に変わってきていますので、より一層の調整が課題です。	人やできごと等「出会い」から自分探し(いいとこ探し)ができるように、今年度も関係する方々と連携を密にし、実施していきたいと思えます。	子どもの時から「出会い」から学ぶを大切に実施中。関係機関の方々には、ご無理もたくさんいい迷惑をおかしています。「子どもたちのためなので」とお力をお借りしています。	総合的な学習の時間を頂き、ボランティアスピリッツに組み合わせ、9月26日(火)に実施。町内の11ヶ所の福祉施設やこども園等に協力を頂き、相手・自分(お互い)が笑顔いっぱいになるには子どもに担当職員の方のアドバイスを頂きながら、計画・準備をし活動を実施しました。子どもならではの相手を思う発想に、関わる専門職も触発され、すべての人にとっての心の学びになったように思います。
●新たに保育・幼児教育施設における福祉教育として、施設訪問による交流など小さい子どものための福祉理解を関係者等と検討します。	本田 吉田	夏のボランティア体験時、中学生や高校生等とふれ合い、一緒に楽しいを軸に計画し実施。その中には、動物(命)の大切さを知るために、一緒に動物小屋を掃除したり、運動会の練習をお父さんやお母さん代わりに行ったりとさまざまでした。また、各園の近くに福祉施設があるため、出向いての交流や子どもたちの絵をプレゼントする等、さまざまな形で交流を行いました。各園におまかせになってしまったことが反省です。	夏のボランティア以外、個々おまかせなどところが多く、今後はどうしての交流なのか等の目的を明確にしたり、調整等一緒に取り組みたいと思えます。	今年度も実施。参加人数は少なかつたですが、大切にしたいこと等打合せをしっかりと実施することができました。	各地区ごとに近くにある高齢者施設との交流を実施。実際に出向く活動が軸となりましたが、日々の活動での作品を交換し展示し合ったり、プレゼント交換をしたりと、小さい時から特別ないろいろな出会いのカタチを、関係者同士でその時々相談し実施できる体制ができてきたことが今年度の成果です。
●小・中学校においては、学習の内容を充実させるために、ニーズの把握と新たな学習方法の情報の収集と企画提案を行います。	〃	中学1年生全員を対象に総合的な学習の時間を使い、中学校と協働で今年度も実施しました。その時々の子どもの抱える課題に添いながら、先生と相談し、教育と福祉の協働で「共育」を目指しての実施ですが、先生との打合せ調整に苦慮し、直接会っての打合せが少なく、今後の課題としたいです。	今年度も5月から実施予定です。(日程はまだ未定)子どもたちのニーズや課題に添い、その都度、先生方と相談しながら実施していく予定です。	子どもの今の課題や伝えなければいけないことをゲストも交えながら実施中。	中学校は、1年生を対象に年17回実施。(内容は、聖籠中学校卒業の先輩や聖籠中学校の先生、視覚に障がいのある方等のゲストの体験談(お話し)やアニメを使ったボランティアとは？を考える授業、高齢者疑似体験等「ほく、わたし、あなたを知る」のテーマに実施。小学生は、4・5年生を対象に年6回実施。テーマが障害者理解・高齢者理解。体験を中心に子どもたちと共に考える内容で実施。
体験活動の機会を「意図的」、「計画的」に継続していきます。	本田	例年通り・マンネリ化になりがちなので、今までやってよかったことは継続し、地域ニーズに合わせ、見通しを持ち計画することが今後の大きな課題です。	体験＝出会いです。誰にでも参加してもらえるような機会を検討します。(今までやっている体験活動は継続)	体験＝出会い活動は、今年度も実施。子どもは学校とタイアップし、個々のニーズに合わせて実施していますが、後半全体に呼掛け参加できる機会を検討していきたいです。	体験活動に変わり、9月26日に体験した内容やそこの感じたこと・伝えたいことを全体に知ってもらうため、模造紙にまとも学校に掲示、体験していない子どもたちにも体感してほしいこととまとめることで再度、何が大切だったかの確認ができたことはよかったです。日程等の調整が難しく、体験を組めなかったことは今後の課題です。
●ボランティア活動の紹介や活動事例集などの作成により周知し、「見守りボランティア」等の体験による新たな担い手を発掘していきます。	本田 吉田	活動事例集の作成には至りませんでしたが、地域で高齢者の集まることで見守っている活動をしているボランティアが地域のイベントで寸劇をし、活動の大切さとそれを支えるボランティア募集を目的に実施しました。人数は数人でしたが、私も仲間！という声があがったことが成果です。	今年度4月22日に「いくつになっても元気いりて～…世代を超えて伝える命の大切さ…」の講演会前座として、昨年実施した寸劇を披露してもらいました。テーマは少しずれるところはありますが、いろいろなチャンスにPRしてもらい、今回も支える仲間！と声をかけてもらいました。一地区だけでなく、少しずつでも他の地区に広がるよう「ふれあい交流事業」ともリンクし検討していきたいです。	現状維持の状態です。後半「ふれあい交流事業」の振り返りや課題の整理をし、次へ進められるよう準備をしたいと思います。	蓮濁集落で人と人が触れ合うこと・集まることの効果や意味について学習会をスタートしました。イメージづくりのため、実際に町内で行っているふれあい交流事業等の見学も実施。
●ボランティアの体験から継続して活動できるよう、年間を通して体験を積み重ねることができるプランを年代別や内容別にボランティア団体、事業者等と協働して、企画・検討します。	〃		中学生や高校生、大学生等若者のボランティア体験の実施が主体となり、福祉教育的意味合いが強く、今後の活動につながりにくい場合、誰もが体験でき、活動として引き継いでいけるよう検討していきたいです。	体験＝出会い活動は、今年度も実施。子どもは学校とタイアップし、個々のニーズに合わせて実施していますが、後半全体に呼掛け参加できる機会を検討していきたいです。今年度より「命を見つめる」から防災教育も中学校と合同で計画。	9月28日(木)に聖籠中学校で実施。「命の大切さ」を災害から見つけるということテーマで、日本赤十字社の方をゲストに、防災教育も含め、命の尊さを学ぶ授業の協力。→この授業の内容や子どもたちの学びについては、新潟日報NICIに掲載。

平成29年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

平成30年3月31日現在

取り組み内容	事務局等 担当者	平成28年度事業成果と今後の課題	平成29年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	平成29年度中の進捗状況①	平成29年度の取組み結果
<b>(2)「ふくしの風土づくり」の担い手を育む</b>					
子どもや大人、障がいの有無に関係なく福祉や地域に関心を持ってもらえるよう、交流や社会参加を促進するなどイベントを通して啓発活動を行います。	本田	個々の活動が中心となり、町全体でのイベント的な取り組みは行いませんでした。「人間理解」をテーマになると社協発信にしても、さまざまな関係者と共に創ることで広がり、深まっています。あえて、そこに至るまでの心の温度さを埋める作業期間としました。	個々のつながる交流活動を今年度も今まで以上に丁寧に継続します。	6月24日(土)手をつなぐ育成会聖籠大会が開催され、とても多くの方が力を貸してくれました。若者ボランティアグループ「スマイル」・朗読ボランティア「たんぼほの会」・コーラス聖籠の杜・東北電力・ジャパンサッカーカレッジ・新潟医療福祉大学・Daiya等数えきれない程の団体、人が参加してくれました。「ハンディのある人と関わるのは初めてでしたが、とにかく楽しかったです。また参加したいです。」の感想が多く、引き続き、さまざまな機会を見つけ、つながる交流活動を実施していきたいです。	6月24日(土)手をつなぐ育成会聖籠大会が開催され、とても多くの方が力を貸してくれました。若者ボランティアグループ「スマイル」・朗読ボランティア「たんぼほの会」・コーラス聖籠の杜・東北電力・ジャパンサッカーカレッジ・新潟医療福祉大学・Daiya等数えきれない程の団体、人が参加してくれました。「ハンディのある人と関わるのは初めてでしたが、とにかく楽しかったです。また参加したいです。」の感想が多く、引き続き、さまざまな機会を見つけ、つながる交流活動を実施していきたいです。
●集落単位や各種団体などの参加により作品や情報の展示、活動の発表、体験など人とながるための地域行事やイベントの開催を検討します。	次長	産業観光課、社会福祉教育課に協力をお願いしながら一緒に活動できるように検討する。	6月24日(土)手をつなぐ育成会聖籠大会に各種団体も協力参加する。	多くの方(団体)が手をつなぐ育成会聖籠大会に参加。30年度のイベントを検討できるように他機関の情報を収集する。	30年度のイベントを検討できるように他機関の情報を収集できなかった。
生涯学習と連携し、福祉について学ぶ機会を提供・支援します。	本田	生涯学習と連携しての学ぶ機会の提供までには至りませんでした。目的は同じでも、それぞれがそれぞれのことをではなく、共に力を出し合い共に創る仕組みづくりが課題です。	今後「誰もが豊かに生きる」ために必要な生涯学習(社会教育課)との連携は必須です。まずは、共に情報交換・情報収集からスタートしたいと思います。	情報交換・情報収集として町と日程を調整中。	引き続き、情報交換・情報収集に努めていきたいと思っています。
●町の社会教育課と協働し合同の研修会を企画、検討します。	本田	社会教育課主催の各イベント協力や研修会にボランティア団体が参加させてもらう機会は多いですが、協働で行う事業はありませんでした。	まずは、社会教育課が実施している事業や事業目的等情報収集をしっかりと行いたいと思います。地域づくりのワークショップ等の取り組み等社会教育課も取り組み始めているので、まずは協働するための動向を知る(参加させてもらいながら)情報を集めたいと思います。	情報交換・情報収集として町と日程を調整中。	引き続き、情報交換・情報収集に努めていきたいと思っています。
集落などの小地域や企業において、福祉教育の機会を設けることができるようにチラシ、資料等を作成し、講座などの開催や活動参加を促します。	荒井	28年度中に事業を前に進める。	29年度に企画をし、事業の組立や関わる方々と打合せを行い、30年度実施予定	山諏訪山、正庵集落を対象に30年度から講座形式できっかけづくりを行う。	山諏訪山集落を対象に福祉講座を開催予定。30年度、日程調整
●企業などに働きかけ、地域行事や社会貢献の促進を図ります。	佐藤	28年度中に具体的に事業を進める。	地域行事や、商工会等の企業の社会貢献活動に参加し、社会福祉協議会としてどのように関わりが持てるかを模索し、30年度の実施に向けて準備を進める。	5月に蓮湯集落の育成会イベントに交通誘導係として参加する。当該イベントにおいて交通誘導以外ではニーズが感じられなかった。今年は開催されなかったがマリンフェスタ等のイベントで商工会等と連携し、杉の子の商品販売ができないか検討したい。	5月に蓮湯集落での育成会イベントに参加し、9月に汐彩の郷納涼会に参加するが、社協としての関わりを見出したり、関係機関とうまく連携や、検討する事ができなかった。
社協においては福祉教育担当者を養成します。	本田	福祉教育を教える?とは、とても難しく日々携わる担当職員も共に学ぶ姿勢がとても大切だと感じます。共に気づき、感じ、気づいたことに一緒に感動し合う、携わってくれた職員のそんな姿を見、今後も継続していきたいと感じています。	社協職員はもとより、出会いの場に携わる人(施設職員や教諭、家族、住民等)が、「人間理解」でき伝えることができるよう、一つ一つの場面を大切に相手も思いも馳せながら、大切なことを共有することから始めます。	今年度は打合せを丁寧に、何を伝えたいかをしっかりと伝えられる時間をそれぞれが忙しいので恐縮しながらも、わずかでも頂いて行っています。	今年度は打合せを丁寧に、何を伝えたいかをしっかりと伝えられる時間をそれぞれが忙しいので恐縮しながらも、わずかでも頂いて行っています。
●地域福祉活動の中核を担う人材を養成するため、職員の資質向上、スキルアップを目指した研修会等を実施します。	本田	各分野の社協職員に福祉教育の時間に「年をとってどんなこと?」「障害者理解」等の授業に携わってもらっています。どんな人も尊いことをどう伝えるかを関わる職員で考え、意見を出し合い、授業望む打合せが、研修に匹敵すると考えています。	センター長や長年福祉教育に携わってくれている職員を中心に実施してきましたが、社協職員誰もが同じ思いで臨めるよう、まずはたくさんの職員に体感する機会を設けることから取り組みたいと思います。	福祉教育は、伝える側には、またの機会があるが、その時参加してくれる子どもや人はその時のため、一発勝負的な所があるため、センター長や長年福祉教育に携わってくれた人から学ぶ所からスタートしています。	福祉教育は、伝える側には、またの機会があるが、その時参加してくれる子どもや人はその時のため、一発勝負的な所があるため、センター長や長年福祉教育に携わってくれた人に多く関わって頂き、一人でも多くの人に伝わるように、時間のある時に参加して頂くよう呼びかけを実施しました。

平成29年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

平成30年3月31日現在

取り組み内容	事務局等担当者	平成28年度事業成果と今後の課題	平成29年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	平成29年度中の進捗状況①	平成29年度の取組み結果
<b>(3)「ふくしの風土づくり」の担い手を支援する</b>					
<b>多くの町民がボランティア活動に参加できるよう、ボランティアの担い手の育成に努めます。</b>	本田	ボランティアに興味のある人ややってみたい人だけでなく、何らかのきっかけでボランティア活動につながり、自分自身にとっていい活動と知る機会を全体で取組めなかったことが今後の課題です。	町全体のきっかけづくり(知る機会)を、各ボランティア団体・関係機関等と検討し取り組みたいと思います。	後半に実施予定。	3月19日(月)に給食(配食)ボランティアの関する学習会の実施。 3月29日(木)ボランティア学習会(講師:河田瑠子氏)実施。
●ボランティア団体などと協力し、初めてのボランティアの「お試し活動」(体験講座)を開催してボランティア活動へのきっかけを提供します。	本田 吉田	全体に講座と名を打っての実施ではなかったが、各ボランティア団体の活動見学や活動体験をニーズに合わせて実施。ニーズに合わせるだけでなく、誰ものかきかけになる取り組みができなかったため、今後に活かしていきたいと思います。	町全体のきっかけづくりの体験講座を、各ボランティア団体等と検討し取り組みたいと思います。	後半に実施予定。	3月19日(月)に給食(配食)ボランティアの関する学習会の実施。 3月29日(木)ボランティア学習会(講師:河田瑠子氏)実施。
<b>地域における福祉活動を活性化するための、地域の核となるボランティアリーダーの育成に努めます。</b>	本田	より多くのリーダー(副リーダー)に参加してもらうため、実施する時期を今後検討したいです。(今年度は2月末)	リーダーの質により活動は拡大をも縮小をもちます。リーダー研修は今年度も継続し実施していきたいと思います。	昨年同様、リーダー(副リーダー)の自己覚知も含め、研修を検討中。	3月29日(木)のボランティア学習会は、各ボランティアグループのリーダーにも参加頂き、再度ボランティア活動の意味やメンバー一人ひとりの尊重の仕方、細く長く続けていくコツ等を学ぶ(情報交換)の場としても活用。
●地域団体活動の充実のため、地域のニーズに応じた人材育成の講座や研修会を検討します。  ●それぞれのボランティア団体の代表や核となる人材に対して、リーダー育成講座や先進地視察などの機会を検討します。	本田	平成28年度初めて各ボランティア団体のリーダー研修会を実施。それぞれの活動を知っているようで知らなかったり、一緒にできることもあったり、また、なぜ「ボランティア」活動が必要なのか等の基本的なことを新めて確認がリーダーからでき、とても成果があったように思います。	リーダーの質により活動は拡大をも縮小をもちます。リーダー研修は今年度も継続し実施していきたいと思います。	昨年同様、リーダー(副リーダー)の自己覚知も含め、研修を検討中。	3月29日(木)のボランティア学習会は、各ボランティアグループのリーダーにも参加頂き、再度ボランティア活動の意味やメンバー一人ひとりの尊重の仕方、細く長く続けていくコツ等を学ぶ(情報交換)の場としても活用。
<b>地域における福祉の芽が育まれるよう受け手と担い手をつなぐ仕組みづくりを進めます。</b>	本田	各地区では何気なく行っている支え合い。活動というよりは何気なく、このことがいかに大切かを知る機会の提供を今後検討していきたいです。	まずは各地区の動きを私たちが知るからスタートしたいです。今年度からすぐに地区全体という訳にはいかないと思うので、モデル地区を設定し、地区の代表の協力もお願いし、取り組みたいと思います。	各地区で行われている環境美化の一環で行われている町の事業「クリーンサポート事業」に取り組みもうとしている地区に、地区全体で取り組むためにどんな工夫をし、実施にまで持ってきたかの聴き取りと少しだけ関わらせて頂きました。	各地区で行われている環境美化の一環で行われている町の事業「クリーンサポート事業」に取り組みもうとしている地区に、地区全体で取り組むためにどんな工夫をし、実施にまで持ってきたかの聴き取りと少しだけ関わらせて頂きました。(三賀・次第浜)
●活動を希望する団体等と支援を必要とする人、双方のニーズを把握するため、相談機関や活動者等の情報収集を進めます。 ●社協だよりや広報に身近な福祉やボランティアの情報を掲載し、住民同士の身近な支え合いが福祉であることを広く町民へ知らせ、理解を広めます。	本田 吉田	社協が関わらずとも行われている住民同士の支え合いはたくさんあります。そこを今回は「ほらねっ」と伝えることができてよかったです。地域の動きをどう把握していくかが今後の課題です。	地区の代表、民生委員、地域の人等との接点はとても多い社協です。その接点から今、地域で何をテーマに行われているのかや、やろうとしているのか等分野は問わずとも興味関心を持つ(職員の感じるアンテナを高く持つ)ことから始めたいです。	ハンディのある方々の生活づくりから地域の方とは関わる人が多いですが、「困る・どうにかしてほしい」と言う声を聴くたび、「共に生きる」地域づくりへの努力がまだまだだと反省しています。目で見てわかりづらいハンディを多くなってきているので、人間理解の時間を創って行かなければいけないと痛感しています。(どんなカタチでの実施がいか引き続き検討していきたいです。)	ハンディのある方々の生活づくりから地域の方とは関わる人が多いですが、「困る・どうにかしてほしい」と言う声を聴くたび、「共に生きる」地域づくりへの努力がまだまだだと反省しています。目で見てわかりづらいハンディを多くなってきているので、人間理解の時間を創って行かなければいけないと痛感しています。(どんなカタチでの実施がいか引き続き検討していきたいです。)



平成29年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

平成30年3月31日現在

取り組み内容	事務局等 担当者	平成28年度事業成果と今後の課題	平成29年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	平成29年度中の進捗状況①	平成29年度の取り組み結果
<b>(3)「ふくしの風土づくり」の担い手を支援する</b>					
ボランティアセンター的な機能を強化し、ボランティアコーディネーターの配置、育成を検討します。	局長	今後の課題 現在は、個々のボランティア活動への参加、支援に止まっている。今後は、これらの取組みを体系的に整理し見える化するにより、ボランティア活動の活性化を図る必要がある。	①現在、行われているボランティアの活動を整理しHPIに掲載する ②ボラセン機能の強化のため、30年4月1日のボランティアコーディネーター配置に向けて検討する	①本会が関与しているボランティアの活動状況を整理中 ②来年度4月1日のコーディネーター配置に向けて検討中	H30.4.1 ボランティアセンターにボランティアコーディネーターを3名配置した。今後はコーディネーターを中心に、当町におけるボランティア活動の実態を整理しHPIに掲載するなどして見える化したい。
●ボランティア団体間の連携や支援を受ける側と支援する側の調整などを行い、活動しやすい環境づくりに努め、支援等を行うボランティアコーディネーターの配置を進めます。	次長	町内のボランティア団体(社協ボランティア団体を除く)を行政等に確認し、リストを作成することから始める。	リストを作成したら、活動内容をお互いに確認できるような集まりを設定し、意見交換を行い、これからの活動を検討する	ボランティアの把握ができていない。	町内(行政等)のボランティア団体の把握ができなかった。

平成29年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

平成30年3月31日現在

取り組み内容	事務局等 担当者	平成28年度事業成果と今後の課題	平成29年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	平成29年度中の進捗状況①	平成29年度の取組み結果
<b>2.人がつながる場づくり</b>					
身近な場所で気軽に集まることができる、多様な出会いの場を支援し、より多くの「※地域のお茶の間カフェ」の創出を進めます。	本田	実施している地区だけでなく、誰もが気軽に(歩いて)集まれる場の提供を各地区に…課題です。	外に出て、誰かと話す(それが身近な場所で身近な仲間と)誰にとっても元気が出る大切なこと知ってもらうために、まずはそれぞれの地区のニーズを教えてください、地区の代表や関係者に「集うこと」の大切さ知ってもらう機会	「実家の茶の間・紫竹」(新潟市基幹型地域包括ケア推進モデルハウス)への見学を計画しています。	3月12日(月)に視察見学(参加)実施。ふれあい交流事業担当職員・寄り合い「はまな」ボランティアメンバー・蓮湯集落有志等が参加。
●お茶の間カフェは、町や関係機関と連携し空き家等の社会資源を活用して、小地域の人たちが楽しく集い、助けあう環境づくりの居場所として実現できるよう企画・検討します。 ●お茶の間カフェの特徴としては、趣味の集まり、住民同士での楽しみ、井戸端会議、向こう三軒両隣の良さを取り入れるなど楽しく集い、助けあう場として今後の展開を促進します。	本田 青山	各地区の公民館を借り、集まり会を実施。送迎がなくとも歩いて集まれる・地区の仲間と同窓会のように集まると、皆さんとてもいい顔をしています。しかし、年々、高齢になるにつれ、サービスを利用する人が増え、集まれる人が少なくなっていること・開催地区が広がらないことが大きな課題です。	この事業の大切さを知ってもらうため、地区の代表や関係者に知ってもらう機会を創るところから取り組みます。高齢者だけでなく、転入の多い地区のママさんたちの孤独解消・つながりづくりにも目を向けていきたいです。	①「実家の茶の間・紫竹」(新潟市基幹型地域包括ケア推進モデルハウス)を見学し、関係者が「集うことの大切さ」をイメージ化することを目的とし、単独ではなく各専門職と共に取り組みたいです。 ②子どもの分野で「語り合いからつながる」をテーマに、12月10日(予定)に講師をお招きし、子ども教育課中心で計画していますが、保健・福祉も共催し実施に向けていきたいと思っています。	①3月12日(月)に視察見学(参加)実施。ふれあい交流事業担当職員・寄り合い「はまな」ボランティアメンバー・蓮湯集落有志等が参加。 ②2月2日(金)龍谷大学障がい学生コーディネーター 瀧本美子氏を迎えて開催。テーマは「本音で言える関係づくりを」
※ふれあい・いきいきサロンの活動の周知と活動の活性化に努めます。	次長	必要性のある集落並びに協力いただける方の人選等を検討する。	実施する集落が決まったら、区長、担当保健師等の協力をいただきながら、年に3回ほど実施してみる。その状況により開催回数を再検討したり、実施箇所を増やしていく。	二本松の高齢者を対象に「ウエス」づくりを呼びかけて集まれるように、声がけしている。他の集落にも呼びかけを検討中。	二本松の高齢者を対象に「ウエス」づくりを呼びかけ2回実施する。1回目(12月4日)は連絡等が不十分だったため参加者は3人(男性1人、女性2人) 2回目(3月9日)はチラシと声がけを強化していただき、参加者9人(男性2人、女性2人)開催日には地区担当の保健師も同行してもらい健康チェックをお願いした。社協職員だけより、地域と密着している保健師が参加してくれたことはとても良かった。
●社協だよりや広報へ、ふれあい・いきいきサロン活動を紹介するチラシや季刊誌的なものを作成するなどして、参加や活動の活性化を促します。 ●ふれあい・いきいきサロンなどを通じて、支えて欲しい側も気がねなく支えて欲しいと言っている地域づくりを進めます。	長谷川 宮下	27年度は実施をしているサロンの活動を紹介するものが作成できず、参加や活動の活性化を促すことが出来なかった。	実施しているサロンに積極的に参加し内容を理解した上で、活動内容や参加を広報等で紹介していく。	具体的な進展はないが、今年中には今現在実施しているいきいきサロン等に行きたいと思う。	町内で実施されているいきいきサロン等に行けなかった。

平成29年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

平成30年3月31日現在

取り組み内容	事務局等担当者	平成28年度事業成果と今後の課題	平成29年度の取り組み予定 (何をいつまでにするのか具体的に)	平成29年度中の進捗状況①	平成29年度の取り組み結果
<b>2.人がつながる場づくり</b>					
ふれあい・いきいきサロンや交流会などがない地域もあることから、講演会や座談会等を通して、ふれあい・いきいきサロンから始まる地域とのつながりや支えあい、助けあいが気軽にできる仕組みづくりを進めます。	本田	実施している地区だけでなく、誰もが気軽に(歩いて)集まれる場の提供を各地区に…座談会や講演会ではなかなか人が集まらないため、各地区のニーズに合わせた広め方が今後の課題です。	この事業は、誰にとっても大切なため、まずはそれぞれの地区にニーズを伝えてもらい、地区の代表や関係者に「集うこと」の大切さ知ってもらい機会(どういう伝え方がいいかも)を創るところから取り組みます。	①「ふれあい交流事業」の振り返りや課題の整理をし、次へ進められるよう準備をしたいと思います。 ②「実家の茶の間・紫竹」(新潟市基幹型地域包括ケア推進モデルハウス)への見学を計画したいです。	3月12日(月)に視察見学(参加)実施。ふれあい交流事業担当職員・寄り合い「はまな」ボランティアメンバー・蓮湯集落有志等が参加。
●現在、ふれあい・いきいきサロンなどの事業に取り組む担い手が不足していることから、関係団体との連携体制を構築するとともに、ない地域のニーズを把握し、ふれあい・いきいきサロンの実施地区の拡大を図ります。 ●ふれあい・いきいきサロンやお茶の間カフェの地域での必要性や影響、運営や設置などに関して、会議等の開催を企画・検討します。また、地区、集落においてチラシ等で希望を募り要望があれば出向いて情報を提供する機会を検討します。	本田 青山	各地区の公民館を借り、集まり会を実施。(ふれあい交流事業) 送迎がなくとも歩いて集まれる・地区の仲間と同窓会のように集まると各地区で開催し、皆さんとてもいい顔をしています。しかし、年々、高齢になるにつれ、サービスを利用する人が増え、集まれる人が少なくなってきたこと・開催地区が広がらないことが課題です。	この事業の大切さを知ってもらうため、地区の代表や関係者に知ってもらう機会を創るところから取り組みます。高齢者だけでなく、転入の多い地区のママさんたちの孤独解消・つながりづくりにも目を向けていきたいです。	①「ふれあい交流事業」の振り返りや課題の整理をし、次へ進められるよう準備をしたいと思います。 ②「実家の茶の間・紫竹」(新潟市基幹型地域包括ケア推進モデルハウス)への見学を計画したいです。	3月12日(月)に視察見学(参加)実施。ふれあい交流事業担当職員・寄り合い「はまな」ボランティアメンバー・蓮湯集落有志等が参加。
同じ境遇、悩みを持つ者同士がつながり、交流できるように活動を支援します。	本田	個々課題のある保護者同士の語り合いの開催。小集団からのスタートでしたが、まずはそれぞれの悩みを語ることでできてよかったです。	今後も継続し、つながりを強く太くできるようグループ化を検討していきたいです。	医療的ケアの必要な重度の障がいのある子どもを持つ親の会を10月に新発田市の方も入れ開催予定。	子どもたちの体調が落ち着かず、聖籠町内の親御さん3名と医療機関「はまぐみ小児療育センター」の職員の方の力を借り、顔合わせ程度ではあったが実施。子どもたちの体調を見ながら、お互いの悩みや不安を語り合える場を作っていきたいと思っています。
●アンケート調査や各種団体等からニーズを把握し、直接当事者等の交流の場の設置に向けて情報提供など支援していきます。	荒井 宮下	老人クラブのニーズは事務局を担っているので伺うことができるが、その他の団体とはつながっていない。	ピンポイントに対象を絞るこなく、ニーズを調査したらどうか。	具体的な進捗なし。	実施できなかった。
世代間交流など各種の研修会を企画実施します。	佐藤	世代間交流や、歴史を学ぶ研修会をどのように実施するかを検討するにとどまり実施できなかった。	町社会教育課で実施している世代間交流や、町内任意団体が行っているサークル活動等と連携し、実際に体験しながら今後の取り組みを企画・検討していく。	町社会教育課の担当者と調整中です。	町内において、世代間交流や、歴史を学ぶ会がどのように行われているかを調査するにとどまり、企画実施までいたらなかった。
●“昔あそびと食事会”や“町の歴史を学ぶ会”など地域文化・生活と世代間の交流を合わせた会を町の社会教育課等と連携し、新たに企画・検討します。	佐藤	世代間交流や、歴史を学ぶ研修会をどのように実施するかを検討するにとどまり実施できなかった。	町社会教育課で実施している世代間交流や、町内任意団体が行っているサークル活動等と連携し、実際に体験しながら今後の取り組みを企画・検討していく。	町社会教育課の担当者と調整中です。	町内において、世代間交流や、歴史を学ぶ会がどのように行われているかを調査するにとどまり、企画実施までいたらなかった。

平成29年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

平成30年3月31日現在

取り組み内容	事務局等担当者	平成28年度事業成果と今後の課題	平成29年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	平成29年度中の進捗状況①	平成29年度の取り組み結果
<b>3.地域でともに支えあう仕組みづくり</b>					
ホームページを活用し、情報をわかりやすく提供します。	局長	ホームページは開設したが、内容の充実が今後の課題。各施設の取組みをより幅広く発信する必要がある。	各施設の担当に更新に向けた技術的ノウハウを修得させる。	各施設によって情報発信頻度が異なっています。ノウハウの習得を進めます。	多くの情報が発信できるようになったが、未だ発信量が少ない部署が見られる。
●社協のホームページを開設するために企画・検討し、わかりやすい内容の情報提供に努めます。 ●地域への関心を高めることや顔の見える関係づくりなどの事例をまとめ、それらの事例を共有できる仕組みづくりと事例活用に向けた取り組みを進めます。	荒井	ホームページ立ち上げによる。多数の方にみていただけてるよと感じる。各事所で頻りに情報発信ができるかが課題か。	最新の情報発信を行い、観閲者を増やす。	情報発信している。	お知らせのホームページUPは21件の実績
社協の発行する広報等の活動内容の紹介や福祉情報の提供について、わかりやすい情報提供に努めます。	荒井	わかりやすい情報提供	29年度も契約業者とスケジュールに沿って行いたい。	企画会議で検討する。	企画会議を4回開催し検討を行った。
●より多くの町民に情報発信ができるよう、身近な地域福祉活動の啓発や発信方法を検討します。 ●地域で支援を必要としている人に対する取り組みや紹介、周知を行うための方法について検討していきます。 ●障がい者、高齢者、子どもなどそれぞれの状況に応じた紙面づくりや、必要な情報の提供の仕方をニーズに合わせて検討していきます。		事業の趣旨を意識しながら、広報委員委で企画検討した。ニーズに合っているかが見えない。	29年度も趣旨を意識し、企画会議を開催する。	29年度も趣旨を意識した紙面づくりをしている。	29年度も趣旨を意識した企画会議でチームで取り組みたい。
地域ごとの支えあい・助けあいのための座談会を開催します。	荒井	行政担当者と打合せに進めるよう相談する。	29年度も引き続き検討をする。	具体的な進捗なし。	町の地域支え合いづくりフォーラムに参加し今後の参考にする。
●地域ごとに町民が生活の困りごとや生活に望むことを話し合う機会の場として、町の関係課や地域で活動している団体などと協働して座談会を開催し、生活課題の解決に向けた取り組みを支援します。 ●座談会を活用し、地域課題の把握を行うとともに、福祉活動への関心が高い地域から地域福祉の普及啓発や地域課題に合わせた活動を進めていきます。	次長 長谷川 宮下 佐藤	担当同士の話し合いを行う。	担当同士の話し合いを行い、行政と協力しながら企画会議を実施する。	具体的な進捗なし。	11月26日 1月18日 2月15日 地域支え合いづくりに参加するが、具体的な進捗はなし。



平成29年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

平成30年3月31日現在

取り組み内容	事務局等担当者	平成28年度事業成果と今後の課題	平成29年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	平成29年度中の進捗状況①	平成29年度の取り組み結果
<b>3.地域でともに支えあう仕組みづくり</b>					
<b>地域でのネットワーク化を図り、相談機関や専門機関等と連携し、地域での見守り、支援体制の取り組みを進めます。</b>	本田	取り組みとしては既存の事業からですが、このことも大切にしながら、それぞれがそれぞれを心配し合える関係づくりが今後の課題です。	給食サービス事業の配達は継続しつつ、各相談機関や専門機関等と連携し、支援体制づくりの検討をする機会を今年度は持ちたいと思います。	予定どおり実施中。今年度は各機関と連携し、本当に必要な人への配達を、また配達している人の生活や体調の変化等の情報共有をしっかりと行っています。	予定どおり実施。今年度は各機関と連携し、本当に必要な人への配達を、また配達している人の生活や体調の変化等の情報共有をしっかりと行っています。
●地域の町民一人ひとりが、地域において支援が必要な人に気づき、対応できるよう啓発を進めます。 ●地域団体やボランティア団体などが見守り活動に参加できるよう活動内容や役割などの理解を求める取り組みを進めます。	本田 吉田	給食サービス事業のお弁当配達をボランティア・在宅介護支援センター・ホームヘルパー・デイサービスセンター・なごみの会に協力してもらい、行っています。安否確認はもとより、顔を知ってもらっていることで何かあった時にすぐにつながり支援できるように取り組んでいます。体調面の把握だけでなく、心配ごとや困りごと等も聴くことができ、次にすぐにつながることができ、収穫となっています。	配達時、各専門職等の車を見て、支援が必要なかなと近所の人が気にかけてくれ、救急搬送された時や家族が来て出掛けた時等わざわざ連絡してくれる近所の人がわずかではあるが増えてきています。心配し言葉を交わしたり、見守ってくれる近所の方が、配達だけの行為で意識し行動してくれていることを実感し、今年度も継続したいと思います。	今年度も在宅介護支援センターの顔売り(つながりづくり)訪問も兼ね、協力を頂いています。	平成29年度中は、在宅介護支援センターが社会福祉協議会運営ということもあり、在宅支援センターのケアマネージャーの顔売り訪問・単身高齢者等の生活把握・安否確認も含め、年間通して実施しました。
<b>地域団体や企業等に対し組織の役割や活動内容などをPRできるよう支援します。</b>	佐藤	28年度は具体的な活動内容を示す事ができなかった。今後は地域団体や企業等の福祉活動をHP等でPRできないか検討する。	地域団体や企業等が実施する社会貢献活動や、地域福祉活動に人材を派遣し、共に活動内容や成果をHPや、広報誌等で紹介(PR)できるよう努めます。	町内の地域団体や企業等でどのような活動を行っているのかと実際に人材を派遣する事もできていないが社協が行っている福祉活動に地域団体や企業の方に参加してもらい、その活	町内各世帯、商工会、JCI等の団体へ声をかけ災害ボランティア活動研修を行った。今後この研修だけでなく、社協としての様々な役割、活動を知ってもらう取り組みをしていきたい。
●福祉施設や企業等に働きかけ、地域行事への協力やイベントなどの人材派遣など、地域貢献の促進に努めます。	宮下	企業や福祉施設の取り組み等知ることができなかった。	企業や福祉施設がどのような地域行事を行っているか把握し、その上で何ができるか検討する。	福祉施設が実施している行事(祭り)を見学し、どのようなことをどのくらい協力できるか検討してみる。	福祉施設の行事を見学したが、具体的な進捗なし。
<b>町民が気軽に利用できる相談窓口の設置を検討します。</b>	次長	心配ごと相談所開設	弁護士相談の広域利用が出来るようになったことをホームページでお知らせする。地域活動(ふれあいサロン、懇談会)の事業開催時に、社会福祉協議会、心配ごと相談所は、町民が気軽に相談できる所であることを伝える。	弁護士相談、心配ごと相談の現状維持のみ。	弁護士相談、心配ごと相談の現状維持のみ。ただし保健福祉課より心配ごと相談件数が減少しているため、月2回の相談日を1回に変更する予定。
●町民と日常的にかかわることで信頼関係を築き、一緒に地域力を高められるよう取り組みます。 ●相談場所や構造をプライバシーへ配慮して配置し、雰囲気づくりのために相談窓口の案内表示等を分かりやすく明るい表示に工夫し開かれた相談室を目指します。 ●相談についての「気軽さ」をアピールしたチラシや掲示物を作成します。	長谷川	町民と日常的に関わる事が出来ず、地域力を高めるような活動が出来なかった。弁護士相談、心配ごと相談は広報等では載せているが、その他町民と関わるようなものアピールはできていない。	町民と関わる機会を増やし、相談についての気軽さをアピールしたチラシや掲示物の作成に取り組む。	具体的な進捗なし。	町民の皆さんとのかかわりを持つ機会を持つことを積極的に設けることができなかった。また、気軽に相談できるということをアピールするチラシ等も作成できなかった。

平成29年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

平成30年3月31日現在

取り組み内容	事務局等担当者	平成28年度事業成果と今後の課題	平成29年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	平成29年度中の進捗状況①	平成29年度の取り組み結果
<b>3.地域でともに支えあう仕組みづくり</b>					
地域に支援を必要としている人を発見し、相談支援機関等と連携して必要な支援に結びつけていく「ふくしの結（ゆい）づくり」支援体制に取り組みます。	本田	社協だけでなく、他機関からの力も借り、町全体で仕組みづくりを！ということまで全体的にいかない…全体の課題です。(日々、それぞれ個々の課題に追われてしまうこと原因でしょうか)	引き続き、テーマ別のネットワーク会議の実施とそこで出た話題や課題を共有する機会をやり方から検討します。	子どもの分野で「語り合いからつながる」をテーマに、12月10日(予定)に講師をお招きし、町子ども教育課中心で計画していますが、保健・福祉も共催し実施に向けていきたいと思っています。	平成30年2月2日(金)龍谷大学障がい学生コーディネーター 瀧本美子氏を迎えて開催。テーマは「本音で言える関係づくりを」。専門職はじめ広く町民にもPRし、教育・保健・福祉協働し実施しました。
●各地区において多様化、複雑化する新たな福祉課題に対応するためボランティア等や相談支援機関、関係機関、町の関係課などで構成できるよう参加を呼びかけ、「支援ネットワーク会議(仮称)」を設置し、専門的に検討を進められるよう企画します。	本田	各テーマごと(年代ごと)のネットワーク会議は、そのテーマに合わせた機関と連携し実施しましたが、全体となると課題が変わってくるため、なかなか難しいです。	今年度もそれぞれのテーマごとでのネットワーク会議を社協だけでなく他機関とも連携し、継続的にやりたいと思います。	子ども・障がい・高齢者、それぞれ制度を知る学習会から各専門機関スタートしよう計画。	4月21日、亀代小学校特別支援学級担任・在籍している保護者と制度学習会の開催。 9月8日、教育・保健・福祉のネットワーク会議にて障害等相談から見える課題を話題提供し、学習会の開催。
ボランティア団体等の福祉活動の報告会を開催し、地域全体に活動を普及していきます。	本田	日々動いている個々の活動が中心になってしまい、振り返りも個々でと、大いに反省です。	平成29年度は、情報交換会的内容で気兼ねなく開催できるよう計画したいと思います。	今後検討中。	3月29日(木)のボランティア学習会は、各ボランティアグループのリーダーにも参加頂き、再度ボランティア活動の意味やメンバー一人ひとりの尊重の仕方、細く長く続けていくコツ等を学ぶ(情報交換)の場としても活用しました。
●各ボランティア団体等が今後、活動を行い地域全体に活動の普及を図るため、活動の支援内容やその成果について、ボランティア団体や関係機関、集落の区長や民生委員・児童委員など、福祉活動の多様な担い手に向けての報告会の開催を検討します。	本田 吉田	全体での報告会の開催は、実施できませんでした。各ボランティア団体のリーダー研修を今年度開催し、リーダーだけでなく、全体での研修会の開催の必要性を実感しましたので、来年度は、ぜひ検討したいと思います。	平成29年度は、情報交換会的内容を開催を予定したいと思います。	今後検討中。	3月29日(木)のボランティア学習会は、各ボランティアグループのリーダーにも参加頂き、再度ボランティア活動の意味やメンバー一人ひとりの尊重の仕方、細く長く続けていくコツ等を学ぶ(情報交換)の場としても活用しました。
援護者名簿、安否確認の方法などの支援体制づくりと周知を図ります。	次長	歳末見舞用の名簿作成。高齢者の名簿は把握しやすいが、障害者、母子父子家庭等の名簿作成は困難。名簿作成、支援体制づくりに行政にどこまで協力をもらえるかが課題となる。	名簿作成、支援体制づくり等、社協単独では厳しいため、関係機関へ協力をお願いすることからスタートする。	具体的な進捗なし。	例年どおり保健福祉課の協力もあり、平成29年度歳末見舞名簿作成したが、安否確認の方法、体制づくりと周知については、具体的な進捗はない。
●援護者福祉マップづくりの支援等を通じて、町民が地区について理解を深めることへの支援を行います。 ●小地域において、プライバシーに配慮しながら、集落の区長や民生委員・児童委員、町保健福祉課と協力して、援護者マップを作成し、安否確認方法などをマニュアル化します。また、地域内の町民との安否確認方法のマニュアルや援護者名などの情報の共有化についてルールや情報管理等を検討します。	荒井	企画中	30年度を事業開始目標に、29年度に事業を企画し、予算の盛り込みを検討する。	具体的な進捗なし。	実績進捗なし

平成29年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

平成30年3月31日現在

取り組み内容	事務局等 担当者	平成28年度事業成果と今後の課題	平成29年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするか具体的に)	平成29年度中の進捗状況①	平成29年度の取組み結果
<b>3.地域でともに支えあう仕組みづくり</b>					
災害時の助けあいを推進するため、災害研修・災害ボランティア研修を行います。	荒井	28年度の課題として、東港企業に向けて狙ったが、参加者21名中出席は1名だった。	29年度も災害研修・災害ボランティア研修を続けていきたい。	28年度に引き続き29年度も開催した。参加者27名と前年度より6名プラスであった。	災害ボランティア活動研修を開催した。今後、BCP(緊急事態に対する業務継続計画)を検討し、内部の動きを外部に発信すること、一連の動きの中で、災害ボランティアの役割があることの整理が出てくることも要検討。
●ボランティア団体、地区、集落のリーダー等に向け、災害研修、災害ボランティア研修を実施し、広く災害時の対応等の情報が普及するよう支援します。	佐藤 宮下	災害時の研修という事で、町内全世帯にチラシを配布し、企業へも参加を呼びかけたが、参加率が芳しくなかった。	29年度は28年度研修の次のステップとして前年度の反省を踏まえ、どのようにして地域住民や企業へ他人事ではなく、自分の事として捉えていただけるか検討し、有事の際には支え合える関係作りに努めたい。	9月18日に災害ボランティア活動研修を実施、地域団体の方、集落区長、企業の方々、地域住民の方々に幅広く参加を呼びかけ、災害ボランティアセンターの役割を学んでいただくとともに、普段からの顔が見える関係作りの一歩を踏み出せた。	9月18日に災害ボランティア活動研修を実施した。5か年計画に基づく事業なので、内容等については、前年度までの反省点を踏まえ、対応していきたい。
社協内において計画推進会議を開催します。	局長	正式な「推進会議」ではないが、事務局と障害支援センターとの協議で、事業内容別の推進担当者を決定し適宜会議を開催している。	同左	30年度に、正式な「推進会議」が発足できるよう構成部門、メンバー等の検討をすすめる	H30.4.1 地域福祉推進センターを設置し、計画の推進や進捗管理は同センターで一元的に進めることとした。このため、「推進会議」の必要性等については改めて検討したい。
●社協の職員が計画推進会議に参加し、活動計画の内容、取り組み状況や取り組み結果を共有することで、計画の推進力を高めていきます。	次長 荒井	同上	同上	同上	同上